

拝啓、未来のマンゴーへ

国富町立本庄中学校 2年 ふじもと れお 藤元 玲音

僕の住む宮崎県には美しい自然や美味しい食べ物がたくさんあります。皆さんの地元にも、全国に誇れるものがたくさんあると思います。僕にとって誇れるものとは、僕の家で育てているマンゴーです。僕も小さい頃からマンゴーの仕事の手伝いをして、家族みんなで育ててきました。そんな僕にとって大切なマンゴーが無くなってしまうかもしれないということに僕は、マンゴーを守って宮崎県を盛り上げたいと考えました。

令和7年度宮崎県果樹栽培状況等調査によると、平成14年頃に宮崎のマンゴーブームが起きました。当時は、400戸以上のマンゴー農家がいらっしゃいました。しかし、令和7年現在では、220戸という少ない人数になっていき、この数十年の落差がとても激しくなっています。その理由に、マンゴーの育成は多大な労力がかかるうえ、農業を続けるための負担があまりにも大きいということが挙げられます。例えば、冬には、ハウス内にビニールを張ったり、厳重な温度管理や、ハウス内に照明をつけたりと管理が大変なうえ、ハウスを建てたり、冬場の温度を保つための加温機を買ったりと初期費用が膨大にかかります。さらに、近年少子高齢化が進んでおり、高齢な方の体力の限界などで、やめてしまう方が後を絶たないという現状があります。

しかし、暗い話ばかりではありません。僕はこのピンチをチャンスに変えられるのではないかと思います。例えば、宮崎の観光客に向けてマンゴーのPRを強めることで、宮崎マンゴーの新たな消費者を増やし、ブランド力を高めることができます。ブランド力を高めることは、僕たち若い世代が地元の農業にあまり興味を持っていない現状も変えることができます。ブランド力が高まり、若者がマンゴー栽培に興味をもつことで、若者に身近なソーシャルメディアを活用したPRやクラウドファンディングによる資金集めといった新しいアイデアを取り入れることができます。

しかし、中には宮崎マンゴーの価値や資金を集めても、課題である労働力に対する負担は減らないのではないと思う人もいるでしょう。しかし、その課題解決のために、クラウドファンディングによる資金集めをするという取組を考えているのです。例えば、労働力の負担の一つに挙げられるのが、出荷して、ネットで販売し、注文を受けたら業者に頼み、産地直送してもらうという販売ルートを確認すれば、少しでも労働力を減らすことに繋がるのではないかと思います。

僕も昔からマンゴー栽培を手伝ってきて、きれいに育ったマンゴーを見ると「今年も頑張った」と嬉しさに包まれます。そんなマンゴーが消えてしまった時の家族の気持ちを考えると、とても胸が痛みます。

僕にとってマンゴーとは、ただの果物ではありません。僕たち若者が、生き生きとした宮崎県の将来を背負うための、とても大切な存在です。この素晴らしいマンゴーを世界へ発信し、宮崎県の象徴であるマンゴーをこれからもずっと守り続け、永遠に次の世代へ託すことのできるマンゴーを僕はつくりたいです。